長洲町立長洲小学校　校長便り　No.９０

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年５月１５日(月)

【雑感】メディアの影響

ＧＷ中、坪井川遊水地公園を歩いていると、幼稚園くらいの男の子がおもちゃの刀をもってこう言っていました。「全集中、水の呼吸弐ノ型水車！」その瞬間、その子のお父さんが芝生に倒れました。鬼滅の刃の一場面ですね。私は思わず「お～、かっこえ～」と拍手を送ってしまいました。

メディアの威力は凄いですね。そういえば私達が子供の頃は、親が見せたくない番組のNo.1が「8時だよ！全員集合」でした。それはなぜか？　加藤茶さんの一発芸を子供達がこぞって真似をしたからです。「ち○○だ○よ～、○○だ○すの○ね～」（分かる人は同世代ですね!?）って振りを付けてやっていました。少々お下品なギャグを真似していたのです。教育上よくない番組として名前が挙げられたわけですね。この番組はテレビで放映されていたわけですから、保護者も一緒に見ています。どのような内容かも知っている状況です。今はどうでしょう？お子様が見ているネットの内容を保護者の皆様はしっかり把握していらっしゃいますでしょうか。

自由に使える端末を持たせるということは、実は私達大人も知らない危険な世界へと、子供達を誘っているのかもしれません。こう考えますと、今の時代、私達大人は危機感をもって子供達の利用するメディアについて把握しておく必要があるように思うのですが、保護者の皆様はどう思われますか。

耐性を身に付ける

先日、光の森にある本屋さんに立ち寄った時のお話。

久し振りに懐かしい光景を見ました。あるおもちゃ屋さんから子供の大きな泣き声が聞こえています。何だろうと思い近付いてみると、おもちゃをねだる男の子が、陳列棚の前に座り込んで泣いているのでした。私にも経験があります。しかも何となく覚えているんですよね。確か幼稚園か1年生位でしょうか？　そうすればおねだりが成功すると思っていたようで、無理と気付くまでチャレンジしていたような気がします。

さて、こんなことを高学年までやっていたら!?　私がこれまで見てきた子供達にも、少ないのですが数名いました。自分の主張が通らない、思い通りにならないというような時、泣いちゃう子が…。泣くだけならいいのですが、暴力に訴える子もいました。そして、それが繰り返されると、周りの仲間が避けるようになって、とうとうその子は孤立してしまうんですよ。中学校で同じことをやっていると、大事なものを失うことにもなり兼ねません。

法治国家である日本において、子供達の反社会的非社会的行動を法に照らして考えてみると、合法となる言動はほぼゼロです。もっと簡単に言えば、不法行為、犯罪です。思い通りにならないから暴力に訴える、欲しいから物を盗る、嘘をつく、すべてやってはいけない事ばかりです。大人の世界でダメなことは子供の世界でもダメなのです。是々非々です。

社会はルールによって安定しています。そのルールから逸脱することが犯罪となる訳ですね。我慢すること、物事に対する耐性を身に付けることは、非常に大切なことなのです。これを学ぶことができるシステムが「学校教育」であり、掛け替えのない場所なのです。しっかり学んでほしいものです。

シリーズ「自分を語る」#９０

気持ちの整理がついた私は、8名の教え子達と多くの経験を積み、掛け替えのない時間を過ごしました。8月は研修員受入式の後、日本語研修が大きな事業でしたが、1か月日本語研修を受けたからといって、そう簡単に日本語をマスターできるはずはありません。ましてや、南米の研修員は日本語がある程度できますので、私も日本語の方が楽でしたからある程度仕方の無いこととして、コミュニケーションは基本的に日本語、熊本弁で行うことにしました。

日本語研修のさなか、「火の国祭り」にも参加しました。当時（今もかもしれません）、“県庁連”として、火の国祭りに参加していました。8名の教え子達と私、そして通訳さんやＣＩＲ（国際交流のコーディネーター）も参加して、正に多国籍澤田組でした。チョンマゲのかつらを被る子、法被姿の子、浴衣姿の子、様々に、“サンバおてもやん”のリズムに乗って、とても楽しそうでした。正に熊本の蒸し暑い夏を大騒きして過ごしました。研修員、留学生は日本ならではの雰囲気を味わい、「トテモタノシカッタデス。」と口を合わせていました。

8月は、学校現場では夏休みですが、私にとってこの年の夏は休みどころか、最も忙しく充実した夏でした。教え子達がどうしたら楽しく充実した研修を行い、熊本での時間を心に刻めるのか、そんなことを考えながら密な付き合いをした時間でした。とは言え、留学生を除く6名の研修員は日本語研修で忙しく、研修が終われば、実研修に入るため、私自身も研修先との調整に忙しく、バタバタと過ぎた8月でもありました。

8月末、タイの研修員を玉名市にある「れんげ農園」に送り届けます。宿泊施設は農園内にある、いわゆる寄宿舎です。研修開始時の人員は2名で、ロンさんと日本の若者でした。ロンさんは人懐っこい性格でしたので、すぐに打ち解け、楽しそうに研修を開始しました。更に、カンボジアの研修員キンさんを芦北町役場へとお連れし、挨拶を済ませ、研修先である湧浦小学校を視察しました。キンさんは来日直後、最もカルチャーショックを受けていた研修員で、日本の生活に慣れるまで少々時間が掛かりましたが、湧浦小学校の環境は何となくカンボジアのそれと重なるようで、安心して研修を開始することができたようです。

さて、他の研修員は…。当然、最初の宿舎から研修先へ通勤することになります。宿舎は熊本市の渡鹿にあったので、通勤が最も大変だったのは中国の研修員の劉さんでした。しかし、彼女は頑張り屋さんでしたね。毎日、雨の日も風の日も自転車で渡鹿から機能病院まで通いました。他の研修員も全員自転車での通勤でした。時間や移動の自由も効くため、その選択となったのでしょう。

9月1日、それぞれの研修開始です。私は、研修先への挨拶と視察の行脚が始まります。それに並行して、九州内での他県研修や県内研修も企画しなければなりません。九州には学びの多い場所が沢山あります。水俣病に関すること、平和に関すること…、世界の人々が注目している場所が沢山あるのです。それを私には伝える義務があると感じていました。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）